バンビシャス奈良　速報新聞　B.LEAGUE 2018-19シーズン

シカバン

2019.2.23 | vol.371

発行 大和政経通信社 Yamatoseikei News

〒630-8113 奈良県奈良市法連町632-2
TEL.0742-27-1102 FAX.0742-81-9217
http://www.yamatoseikei.co.jp/

香川撃破に燃える大黒柱 『連勝の後こそアグレッシブに』

ゲイリー・ハミルトン

バンビシャス奈良はきょうアウェーで香川ファイブアローズと激突する。前節の山形戦で今季2度目の連勝を飾り、勢いに乗る奈良の攻守の大黒柱として活躍するゲイリー・ハミルトンは、練習で「こういった連勝の後こそ締まった練習をしなければならない。自信を付けることと、緊張感が抜けることは違う」と諭し、チームを引き締める。きょうを含め残り19試合で勝率5割以上を掲げるハミルトンが、香川撃破に燃える。

けがから復帰した山形戦でハミルトンは両日のゲームで40分のフル出場、1日目は17得点、13リバウンド、11アシスト。2日目は11得点、19リバウンド、8アシストと、ジェフリー・パーマーを欠く中、チームを勝利に導いた。

特に日本人選手へ積極的にパスを供給し、仁平拓海、石塚裕也ら、サイドからえぐる攻撃と得点の立役者になり、奈良の攻撃のフィニッシュのバリエーションを増やし、山形にディフェンスの的を絞らせなかったことが光った。

「あの試合では、共通認識をきちんと共有できた部分があったと思う。しかし自分のプレーに満足できた選手と、まだ満足できなかった選手がいたと思う。共通認識は練習の中でしか生まれない。全員がそれをできるようにならなければ」と語る。

アシストやパスの精度に定評があるハミルトンが大切にしていることは信頼。「オープンで空いている日本人選手にパスを出すことが信頼の証。『決めてくれそうだ』とか『やってくれそうだ』とか感じることを大切にしている」と続ける。

山形戦の後の練習、チームの久々の連勝からか、激しいものではなかった。ハミルトンはもっとアグレッシブにとチームを諭し、「香川は昨季の自分たちのようなもの。勝ちがほしいと、強い気持ちで臨んでくる。それと対戦するのにフワフワしていてはダメだ」と強い口調で語った。

昨季の苦しみを忘れたことはない。ハミルトンは「勝率で昨季を超えることは絶対条件。残り19試合で5割を超えなければならない。そういった中、楽なゲームは一つもない」と、強い気持ちで香川に挑む。

B2リーグ 2018-19シーズン 順位表（2月23日現在）

順位	チーム名	勝	負	勝率
東地区				
1位	群馬クレインサンダーズ	31	11	0.738
2位	仙台89ERS	26	15	0.634
3位	茨城ロボッツ	26	15	0.634
4位	福島ファイヤーボンズ	18	24	0.429
5位	山形ワイヴァンズ	16	25	0.39
6位	青森ワッツ	12	29	0.293
中地区				
1位	信州ブレイブウォリアーズ	33	8	0.805
2位	FE名古屋	26	15	0.634
3位	西宮ストークス	22	21	0.512
4位	金沢武士団	17	24	0.415
5位	アースフレンズ東京Z	15	28	0.349
6位	東京八王子ビートレインズ	7	36	0.163
西地区				
1位	島根スサノオマジック	31	12	0.721
2位	熊本ヴォルターズ	29	12	0.707
3位	広島ドラゴンフライズ	27	14	0.659
4位	愛媛オレンジバイキングス	17	24	0.415
5位	**バンビシャス奈良**	13	28	0.317
6位	香川ファイブアローズ	8	33	0.195

初の特別指定選手 玉井と契約締結

バンビシャス奈良は21日、奈良では初となる特別指定選手として奈良県出身のシューティングガードの玉井健介と契約したことを発表した。背番号は21。

180㌢ある玉井は橿原市立大成中学校を卒業後、関西福祉大学金光藤蔭高等学校、東海大学に進学。平成29年6月に開催された西日本学生バスケットボール選手権大会で優勝、3ポイント王を獲得した経験を持つ。

玉井は「特別指定選手として入団させていただくことになりました玉井健介です。生まれ育った地元チームに入団できてうれしく思っています。少しでもバンビシャス奈良の勝利に貢献できるように頑張っていきます」とコメントしている。

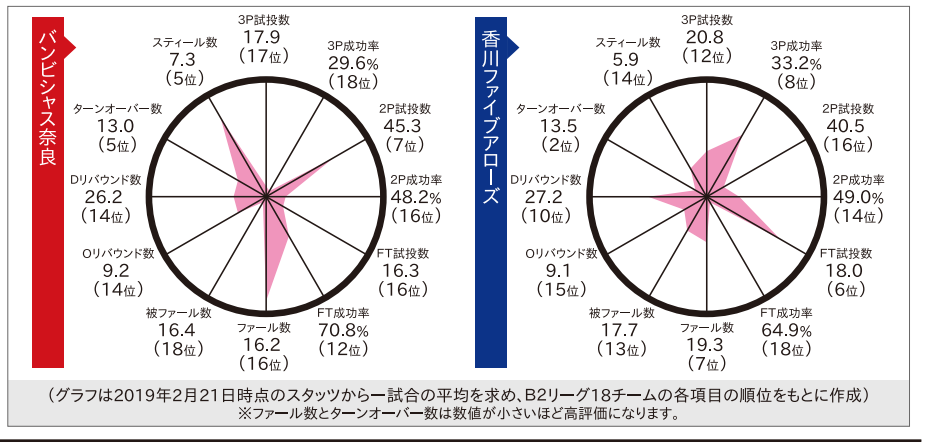
次節分析 analysis

安定した得点獲得を

きょうアウェーで対戦する香川は、現在西地区最下位に位置している。香川は2月からエリック・トンプソンが加入し、前節で中地区2位の名古屋から1勝をうばっているため、相手のペースにならないように注意が必要。

奈良に所属した経験を持つ香川のテレンス・ウッドベリーは、1試合平均24・0得点をマークしポイント部門3位で、奈良との対戦時にも20得点以上をマークし、チームの得点源となった。

奈良の1試合平均得点は71・1得点、香川が72・1得点とわずか1得点差。奈良は今季対戦した2試合ともに勝利を収めているが、前回の試合では79－77と1ショット差まで詰め寄られているため、安定したショット精度での加点が求められる。アウェーの地で今季初の3連勝を獲得し、さらに勢いをつけたい。



（グラフは2019年2月21日時点のスタッツから一試合の平均を求め、B2リーグ18チームの各項目の順位をもとに作成）
※ファール数とターンオーバー数は数値が小さいほど高評価になります。